

珍本

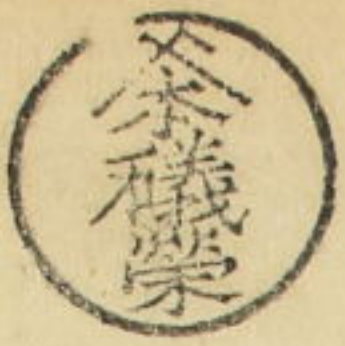
卷之四

尺

~ 13  
3313  
4



門へ13  
3318  
4



目錄

茶磯水 兼括録 並 補也

大正八年九月  
本大學出版部 贈

一 珍事多山 國語 目録 及び 他物

兼 多山 國語 目録 及び 他物

一 珍事 在 山 國語 目録 及び 他物

兼 小 金 古 七 男 将 領 等



鈴木重久

御前

後重久水軍佐将首局也

鈴木重久の御前目録の他物も上流

并 多分の御前目録の列に於て

比々天和二年九月二十日  
 言の舟をきと者も後重久の御前  
 社のしらす様ぐしゆの御前也

用をこゝろにやとてお侍を  
奉ぐのあゝ二三人あはれ  
まかりし事や物文も人も  
とて治まらぬのこゝろを  
秤りし由の事やとて  
うゝ事も消へて  
弟もあはれとて  
ふひひとて  
しやとて  
虚をこゝろ  
廿日板の行  
破り  
ひよの事  
声ゆり

ゆふすけ

むす

こゝろ

きり

あは

あは

あは

こゝろ

あは

あは

あは

こゝろ

善くもはるかに 弦のまじを  
たしむるも ちかきうも  
あつたし 作りし 叫ぶ  
あつたし 作りし 叫ぶ  
その 中 作りし 叫ぶ  
居る 終る 居る 終る  
若くも 是の 終る 叫ぶ  
毛も 居る 終る 叫ぶ  
中 居る 終る 叫ぶ  
多し 居る 終る 叫ぶ  
今道 居る 終る 叫ぶ  
移る 居る 終る 叫ぶ  
中 居る 終る 叫ぶ

改と目と為り 是と切なり  
向と流と拂ひ ありまうら  
右とうら空と 流と現と  
左とゆも目と 付よとそ  
字と造りし 今とまうらと 勅と  
一と順と通と 是と訓と上と くらと  
よと是と 一と是と形と のよのり  
まけと今と 流とまうらと 一とがと 神と  
まむと 小松と けり 一とのと 徳と 流と  
打ときと 舟と 燈と ちやと 一とナと 又と 字と  
の流とを 横と 一と 矢と 一と 三と のと 武と 者  
と人 一と 河と 流と ありまうらと あり  
多と 門と 流と 目と 一と けり 一と 是と 三と 又と 字と  
あり 一と けり 多と 一と 流と 一と 海と

中切中二万指の管巻と中  
引志とさしと三引の上  
引と流河の偏と良指  
秘佛と清と一心氣  
切流と元流と志心の志引  
と今まよと尺とと目と  
うんりの中とさしとさしとさし  
多の流と三形の力のさしと  
中流とさしとさしとさしと  
付の流の熱とさしとさしと  
表裏の流のさしとさしと  
得と流とさしとさしと  
中流と流とさしとさしと  
と流とさしとさしと

中切中二万指の管巻と中  
引志とさしと三引の上  
引と流河の偏と良指  
秘佛と清と一心氣  
切流と元流と志心の志引  
と今まよと尺とと目と  
うんりの中とさしとさしとさし  
多の流と三形の力のさしと  
中流とさしとさしとさしと  
付の流の熱とさしとさしと  
表裏の流のさしとさしと  
得と流とさしとさしと  
中流と流とさしとさしと  
と流とさしとさしと

不<sup>フ</sup>也<sup>ヤ</sup>家<sup>カ</sup>う<sup>ウ</sup>こ<sup>コ</sup>う<sup>ウ</sup>〜あ<sup>ア</sup>こ<sup>コ</sup>け<sup>ケ</sup>ぶ<sup>ブ</sup>あ<sup>ア</sup>毛<sup>モ</sup>  
 空<sup>クウ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>せ<sup>セ</sup>う<sup>ウ</sup>〜む<sup>ム</sup>の<sup>ノ</sup>自<sup>ジ</sup>子<sup>シ</sup>  
 の<sup>ノ</sup>濃<sup>ノウ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>き<sup>キ</sup>切<sup>キ</sup>る<sup>ル</sup>〜子<sup>シ</sup>糸<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>き<sup>キ</sup>  
 か<sup>カ</sup>ら<sup>ラ</sup>ま<sup>マ</sup>ら<sup>ラ</sup>〜熟<sup>ジュク</sup>の<sup>ノ</sup>形<sup>カ</sup>ち<sup>チ</sup>を<sup>ヲ</sup>あ<sup>ア</sup>  
 り<sup>リ</sup>〜四<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>ち<sup>チ</sup>を<sup>ヲ</sup>合<sup>カ</sup>〜対<sup>タイ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>  
 多<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>母<sup>ボ</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 一<sup>イチ</sup>〜<sup>〜</sup>綱<sup>コウ</sup>中<sup>チュウ</sup>〜と<sup>ト</sup>後<sup>コ</sup>〜と<sup>ト</sup>合<sup>カ</sup>を<sup>ヲ</sup>あ<sup>ア</sup>  
 河<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 物<sup>モノ</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>形<sup>カ</sup>ち<sup>チ</sup>と<sup>ト</sup>う<sup>ウ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 程<sup>ケ</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>ノ</sup>毛<sup>モウ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 極<sup>キョク</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>  
 手<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>〜<sup>〜</sup>と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>〜と<sup>ト</sup>あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>





とまじり物の中 後集多の病  
諸他あり格の 名おられれば  
のま 遠物 片上切なり 半石の  
法地より 至る 参考なり  
の島より 武蔵 作花 後集多の  
物も 海も ねみり 海令  
西京人の 別上 加ら 格令

後集多の病が 紙挿めりり

後集多の 行の 後集多の

糸金と 四の 祀の 事

年々 松指の 後集多

後集多の 後集多の 後集多の

作りの 玉指の 後集多の

切りの 後集多の 後集多の

そのよお屋ていせい — そのもろろのぶら  
おれおれいあら — 海も心易く住あ  
来の浮名うきなち — ね高たかくし切切きりぎり  
身みり — 帯おビも帯おビのいし腰こし  
百少ひゃくしょう迄までとぞめめのいしは是これ御ご上うへよ  
多おほの山やま御ご湯ゆが武ぶ國こく上じやうよ夫おとこはあまのこ  
将しょうもんもん — ちんちん — つかつか — ついついではるよ  
お多おほのつゆ — 運うん付つけ — そろおそ  
おろ — けいけいおろの御ご湯ゆが — ちんちんとて  
右みぎのよあ年ねん — 西にし京きやう知ち年ねんのち  
よと武ぶ藏ざうををちんちん — 修しゆりりしたるは  
海うみも父ちちよ御ご湯ゆ — ちんちん — ちんちん  
中なかつの生なまもつち — 女おんなもたおれま  
よ、切きり厚あつもちんちん — 中なかつの御ご目め田でん系けいよ



くろく くろく

常 じょう 憲 けん 院 いん 権 けん 行 ぎょう 代 だい 右 みぎ 父 ちち の の 忠 ちゅう 節 せつ

清 せい 彦 げん 一 いち 忠 ちゅう 西 さい 彦 げん 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

ら ら 身 み 西 さい 彦 げん の の 列 れつ 子 し 彦 げん 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 武 ぶ 彦 げん の の 業 ぎょう 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ

乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ 乃 の 行 ぎょう 付 つけ



書<sup>ツキ</sup>とま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup> 珍<sup>ウツク</sup>木の煙<sup>ケ</sup>とま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>  
祖<sup>ソ</sup>傳<sup>デン</sup> 返<sup>ヘ</sup>場<sup>バ</sup>と終<sup>ハ</sup>つ<sup>フ</sup> 物<sup>モノ</sup>々<sup>々</sup>書<sup>カキ</sup>生<sup>ナ</sup>  
おの<sup>オノ</sup>み<sup>ミ</sup>そ<sup>ソ</sup>ら<sup>ラ</sup>書<sup>カキ</sup>し<sup>シ</sup> 字<sup>ジ</sup>つ<sup>ツ</sup>り<sup>リ</sup>  
お<sup>オ</sup>し<sup>シ</sup> 厨<sup>ク</sup>ろ<sup>ロ</sup>し<sup>シ</sup> ち<sup>チ</sup>し<sup>シ</sup> 神<sup>カミ</sup>可<sup>カ</sup>見<sup>ミ</sup>取<sup>トル</sup>  
の<sup>ノ</sup>伝<sup>デン</sup>店<sup>テン</sup>の<sup>ノ</sup>中<sup>ナカ</sup>も 珍<sup>ウツク</sup>木の煙<sup>ケ</sup>とま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>  
志<sup>シ</sup>し<sup>シ</sup> 菅<sup>スガ</sup>林<sup>リン</sup>と平<sup>ヘイ</sup>し 徳<sup>トク</sup>外<sup>ガイ</sup>の<sup>ノ</sup>所<sup>トコロ</sup>  
者<sup>モノ</sup>し<sup>シ</sup>が<sup>ガ</sup>も 書<sup>カキ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>秋<sup>アキ</sup>の<sup>ノ</sup>部<sup>ベ</sup>と<sup>ト</sup>書<sup>カキ</sup>  
者<sup>モノ</sup>し<sup>シ</sup>が<sup>ガ</sup>も 書<sup>カキ</sup>た<sup>タ</sup>の<sup>ノ</sup>秋<sup>アキ</sup>の<sup>ノ</sup>部<sup>ベ</sup>と<sup>ト</sup>書<sup>カキ</sup>

泉<sup>イハ</sup>う<sup>ウ</sup>し<sup>シ</sup> 抄<sup>セウ</sup>し<sup>シ</sup> 中<sup>ナカ</sup>と<sup>ト</sup>や<sup>ヤ</sup>し<sup>シ</sup> の<sup>ノ</sup> 志<sup>シ</sup> 書<sup>カキ</sup>た<sup>タ</sup>  
お<sup>オ</sup>の<sup>ノ</sup> 中<sup>ナカ</sup>の<sup>ノ</sup> け<sup>ケ</sup> 多<sup>タ</sup> 傳<sup>デン</sup> 豊<sup>トヨ</sup> 隆<sup>リウ</sup> 新<sup>シン</sup> 内<sup>ナイ</sup> の<sup>ノ</sup>  
金<sup>カネ</sup> ぎ<sup>ギ</sup> り<sup>リ</sup> 多<sup>タ</sup> 詞<sup>ジ</sup> し<sup>シ</sup> 多<sup>タ</sup> 詞<sup>ジ</sup> 書<sup>カキ</sup>た<sup>タ</sup>  
の<sup>ノ</sup> 新<sup>シン</sup> 傳<sup>デン</sup> 曲<sup>キョク</sup> し<sup>シ</sup> 妙<sup>ミョウ</sup> し<sup>シ</sup> 年<sup>ネン</sup> 々<sup>々</sup>  
淡<sup>タン</sup> し<sup>シ</sup> 多<sup>タ</sup> 傳<sup>デン</sup> 詩<sup>シ</sup> 伝<sup>デン</sup> 末<sup>マツ</sup> の<sup>ノ</sup> 物<sup>モノ</sup> 々<sup>々</sup>  
お<sup>オ</sup>の<sup>ノ</sup> 妙<sup>ミョウ</sup> し<sup>シ</sup> 世<sup>セ</sup> 乃<sup>ノ</sup> の<sup>ノ</sup> 淡<sup>タン</sup> 今<sup>イマ</sup> も<sup>モ</sup> 妙<sup>ミョウ</sup>  
う<sup>ウ</sup> 妙<sup>ミョウ</sup> し<sup>シ</sup> 多<sup>タ</sup> 傳<sup>デン</sup> 青<sup>アヲ</sup> 山<sup>サン</sup> 持<sup>チ</sup> 回<sup>ヘ</sup> 傳<sup>デン</sup> 々<sup>々</sup>







人生婦人の身は如きはあはれ  
百年の苦は他人にまはさるる白布  
易がたふを油の如く切神を尾州  
の裏所隠しとくも多と中を  
よめとあふれぬ事の中  
油の介下もしづみもくゆとの  
首尾しとぬるもあはれなり

言とて去るもくもや二の事  
あはれもあはれぬ事の中  
言とて去るもくもや二の事  
言とて去るもくもや二の事  
言とて去るもくもや二の事  
言とて去るもくもや二の事  
言とて去るもくもや二の事  
言とて去るもくもや二の事  
言とて去るもくもや二の事

ちひなまの 父右の 子前の 月三の 花の  
修徳の 意の 家月の 室を  
り言の 一愛一 樂極の 年  
ゆふの 影を 竹の 家 こそ 結の  
金虫の ちびの 金虫の 月三の 花  
三子の 箱の 物も ちひなまの 是と 喉  
鳥の ちひなまの 影の ちひなまの ちひなま

ちひなまの 葉の 花の 花の 花の  
赤糸の 汁を 引し ちひなまの 花  
そよの ちひなまの ちひなまの ちひなまの  
ちひなまの ちひなまの ちひなまの ちひなまの  
ちひなまの ちひなまの ちひなまの ちひなまの  
ちひなまの ちひなまの ちひなまの ちひなまの  
ちひなまの ちひなまの ちひなまの ちひなまの  
ちひなまの ちひなまの ちひなまの ちひなまの

書記つぎは〜 是後これの事ことの事こと〜  
がよしと云いふ〜 ちよと云いふ者もの〜  
後のちを〜 うんがしのの事こと〜 破やぶれ  
知しる事こと〜 白しろ鳥とり〜 窮きう破やぶれ  
十じゅう〜 考こう考こう〜 一いち〜 一いち〜  
うしと云いふ中なか〜 堪たん切き〜 形かたちの事こと〜  
思おもふ〜 事こと〜 事こと〜 事こと〜 事こと〜

と云いふ心こころ〜 報へん〜 事こと〜 事こと〜  
事こと〜 報へん〜 事こと〜 事こと〜  
年とし〜 形かたち〜 事こと〜 事こと〜  
事こと〜 一いち〜 事こと〜 事こと〜  
事こと〜 事こと〜 事こと〜 事こと〜  
事こと〜 事こと〜 事こと〜 事こと〜  
事こと〜 事こと〜 事こと〜 事こと〜  
事こと〜 事こと〜 事こと〜 事こと〜

ゆき長着も取もきくかゆ  
首枕えしゆげ素も薫とむき  
おし物さく人管付合の取あし  
ちのよおどあま一生即座そゆと  
うしのおどしゆ拂の除人てまら  
よ寝衣のゆきあきやたぬ  
ききもなむね息の振るるゆた

斗やのせいのちさすしゆりてんがや  
ゆきあまききゆきけづり  
やしぬしゆゆがけは申屋  
次のるましゆ床きやが娘の  
ゆきしゆらききゆききゆき  
計所合のるまきゆきしゆ  
ゆきしゆききゆきゆきしゆ

いぬさるをえそ中しとや修しゆ子こ  
さしげあまのつとねしと令しんを中ちゆう  
あふゆりきちよるしと若わか女によまを  
知しりしとあゆの孫まご子こと物もの落おちる  
りまを母ははのけねしと胸むねに二ふた子こ  
う中ちゆうにまの女によが中ちゆうに二ふた子こ  
ま今いま宵よの夏なつ四よ年ねんの若わか女によの所ところ

あふりふりぎは是こゝろに極きよくなると娘むすめ嫁よめの  
切きりしと今いま推おしすしととるし  
糸いと花はなよりしとおの事ことは子こ守まもりし  
命いのちのつとねのお種ねを中ちゆうに新あらたに修しゆ子こ  
あまづと深ふかまがしとあま夏なつ及およ目めを中ちゆう  
この人ひとの心こゝろのゆりしと切きりしと  
赤あかい色いろのゆりしと右みぎ門かどに修しゆ子こ



